

令和4年度 文教委員会資料

【所管事務の調査（報告）】

川崎浮世絵ギャラリーの運営状況について

資料

川崎浮世絵ギャラリーの運営状況について

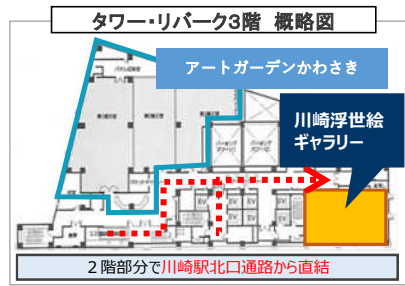
市 民 文 化 局

(令和4年7月28日)

川崎浮世絵ギャラリーの運営状況について

1. 施設概要

住所：川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3階
 開館時間：11時から18時30分まで
 休館日：月曜日、年末年始、展示替え期間
 観覧料金：500円（高校生以下、障がい者と介助者1名は無料）
 ※年間パスポート：3,000円



【展示】
 浮世絵の特性に配慮しながら、コレクションを最大限に活用した展示
 ・作品の変色や変質を防ぐため、4～5週間をサイクルとして、様々なテーマに沿った企画展を実施
 ・江戸時代などの時代背景を反映した日本の伝統文化芸術を、地域の方々や多くの観光客などに見てもらい、また来たいと思わせる期待感を持たせる。

【物販】
 ・浮世絵関連グッズの販売（クリアファイル、絵葉書 等）
 ・図録等、書籍の販売

2. これまでの経緯

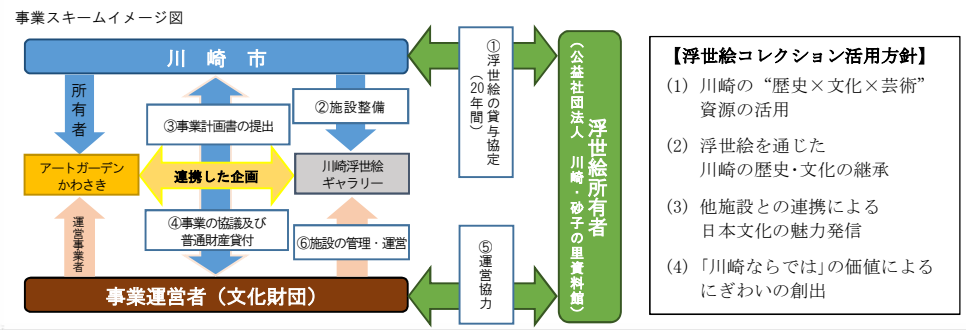
平成28年 9月	川崎・砂子の里資料館休館
平成29年 8月	公益社団法人川崎・砂子の里資料館（以下「社団法人」という。）からコレクションの活用検討依頼
平成30年 4月	「浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）」策定（文教委員会報告・パブリックコメント実施） 市・社団法人「公益社団法人川崎・砂子の里資料館所有美術品の活用に向けた基本合意」締結
平成30年 6月	「浮世絵等の活用に向けた基本方針」策定
平成30年 7月	「浮世絵等の活用に向けた基本計画」策定（文教委員会報告） ⇒事業運営者を公益財団法人川崎市文化財団（以下「文化財団」という。）とする方針
平成30年 8月	市・社団法人「浮世絵等の美術品の活用に関する基本協定書」締結 ⇒市は20年間にわたり展示に必要な浮世絵作品を、その都度、社団法人から無償で借用
平成31年 1月	文化財団⇒市（仮称）アートガーデン特別展示室における事業計画書の提出（文教委員会報告）
令和元年 7月	市・文化財団「アートガーデンかわさき特別展示室の管理運営に関する協定書」締結 （期間：令和7年3月31日まで）
令和元年12月	「川崎浮世絵ギャラリー～斎藤文夫コレクション～」として開館
令和3年 2月	文化財団⇒市「協定書」第18条に基づく協議依頼（新型コロナウイルス感染症の影響に伴う支援要請）
令和4年 2月	「川崎浮世絵ギャラリーの運営状況について」文教委員会報告
令和4年 3月	市⇒文化財団 補正予算による補助金交付 文化財団⇒市 「川崎浮世絵ギャラリー運営改善計画」の提出（議会資料提供）

3. 事業スキーム

川崎市と社団法人との間で締結した「浮世絵等の美術品の活用に関する基本協定書」（平成30年8月31日締結）に基づき、20年にわたり展示に必要な浮世絵作品を、企画展ごとに無償で借用。

本市が整備したアートガーデンかわさき特別展示室において、本市と文化財団が協議した上で、事業運営に関する事項を示した「アートガーデンかわさき特別展示室の管理運営に関する協定書」を締結（令和元年7月1日）し、文化財団が展示等施設運営を実施。

社団法人からは、展示企画や図録の作成において協力を得ている。



4. 令和2～6年度事業計画（平成31年1月文化財団提案）

(1) 経営方針

浮世絵コレクションを通じて川崎の歴史・文化を後世に伝えることで、川崎市の文化芸術の振興や市民の郷土への愛着と誇りを醸成するとともに、浮世絵という貴重な文化芸術資源により、歴史文化と芸術を融合させた「川崎ならではの」価値を生み出し、市民はもとより、今後増加が見込める川崎への来訪者も誘客することによる新たな賑わいを創出する。

(2) 前提条件（浮世絵等の活用に向けた基本計画）

- ①東京2020大会前に開設することで、効果的な誘客が期待できる。
（市民、国内旅行者に加え、訪日外国人、観光客を誘致）
 - ②東京急行川崎駅から近至であり羽田空港からの訪日外国人等の誘客が期待できる。
 - ③年間3万人を超えるアートガーデンかわさき来訪者が訪れることも期待できる。
 - ④アートガーデンかわさき展示室を活用することで、「体験・体感」等の企画も可能
- 知名度向上による来館者増加
 ・「体感・体験」等の企画によるリピーター確保

(3) 事業内容

- 【広報計画】**
- ◆東京2020大会・訪日外国人への対応
 - ・羽田空港など訪日外国人が多く訪れる施設における重点広報
 - ・SNS等での拡散を目的とした浮世絵の撮影スポット設置 など
 - ◆利用促進・リピーターの確保
 - ・他施設、団体等と連携したイベント（スタンプラリー、体感・体験型）の開催 など
- 【施設等との連携】**
- ◆東海道かわさき宿交流館等の文化財団が運営する多様な文化施設を通じた魅力発信 など
- 【想定入館者数】**
- ◆年間50,000人（有料入館者数：39,600人、無料入館者数：10,400人）
 ※藤沢市藤澤浮世絵館、太田記念美術館の入館者数をもとに想定
- 藤沢市藤澤浮世絵館 ※平成28年7月開館 約40,000人（開館後1年）
 太田記念美術館 ※昭和55年1月開館 83,780人（平成28年度）

(4) 収支計画（単位：千円）

費目	R2	R3	R4	備考
観覧料金	19,800	19,800	19,800	有料入館者39,600人×500円
グッズ販売	3,410	3,410	3,410	39,600人×86円（平均個人購買額） ※平均個人購買額は、他の浮世絵美術館の実績
図録販売	1,980	1,980	1,980	1,980人（図録想定購買者数）×1,000円（想定単価） ※想定購買者数は他の浮世絵美術館の実績(5%)
年間パスポート	1,575	1,575	1,575	525人（年間パスポート想定購買者）×3,000円 ※想定購買者数は他の浮世絵美術館の実績(1.05%)
合計a	26,765	26,765	26,765	
支出 合計b	24,120	24,293	24,499	
収支 a-b	2,645	2,472	2,266	

想定運営事業費（約24,120千円～24,499千円）は、他の類似施設の入館者実績を参考として算出した収支予想を踏まえ、自主財源での運営が可能と想定

↓

・運営事業費は入館料及びグッズなどの物販収入を充てることを原則とする（基本計画）
 ・ただし、開設準備経費・施設の賃借料相当分は、市からの補助金を充当



川崎浮世絵ギャラリーの運営状況について

5. 開館以降の運営状況

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う環境変化による影響

- ①東京2020大会を契機とした
訪日外国人の誘客が見込めなくなった。
※訪日外国人客 R30年度:31,627千人 → R3年度:280千人
- ②アートガーデンかわさきの利用が激減(平成30年度比約45%)し、
アートガーデンかわさき利用者の誘客が見込めなくなるとともに、「体感・体験」等の企画も実施できなかった。

有料入館者数・年間収入が事業計画と大きく乖離

<有料入館者数>

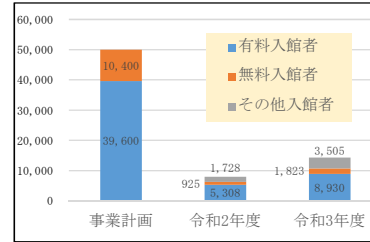
事業計画	39,600人
令和2年度	5,308人 (対事業計画比 約13%)
令和3年度	8,930人 (対事業計画比 約23%)

<年間収入 ※入館料及び物販収入>

事業計画	26,765千円
令和2年度	3,705千円 (対事業計画比 約14%)
令和3年度	5,964千円 (対事業計画比 約22%)

(1) 入館者数 (単位:人)

	事業計画	R2年度 (対事業計画比)	R3年度 (対事業計画比)
有料入館者	39,600	5,308 (13%)	8,930 (23%)
無料入館者	10,400	925	1,823
その他入館者			
新聞社招待	—	405	796
年間パスポート	—	1,323	2,529
総入館者数	50,000	7,961 (16%)	14,078 (28%)



(2) 収支状況 (単位:千円)

	事業計画	R2年度	R3年度	内訳
年間収入合計(A)	26,765	8,451	6,061	
入場料収益				
観覧料金	19,800	2,654	4,465	有料入館者 500円/人(R2:5,308人、R3:8,930人)
新聞社招待	—	73	145	50円/枚(発行数 R2:1,467枚、R3:2,903枚)
年間パスポート	1,575	555	846	3,000円/枚(発行数 R2:185枚、R3:282枚)
物販収入	5,390	423	508	
受託料	—	89	95	行政視察等受入支援業務委託
助成金・給付金	0	4,528	0	雇用調整助成金、緊急雇用安定助成金、持続化給付金
雑収益	0	128	2	雑入
年間支出合計(B)	※24,464	19,528	24,947	※事業計画の「年間支出合計」はR2年度～5年間の平均値
収支(A-B)	2,301	▲11,077	▲18,886	

(3) 赤字収支の原因

①前提条件の大幅な変化

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で国内外からの誘客が見込めなくなった。
(特に東京2020大会を契機とした訪日外国人の大幅な減少による影響大)
さらに、緊急事態宣言発出により、開館直後の特に話題性・広報効果がある期間に約2か月間の休館を余儀なくされた。
- アートガーデンかわさきの利用が激減し、年間3万人を超える利用者の誘客の実施、「体感・体験」等の企画が開催できなかった。
(アートガーデンかわさき利用者数 平成30年度:37,651人 → 令和3年度:16,780人)

②固定経費

- 運営上、必要な固定経費が発生→収入に合わせて事業費を削減できない。
(例)人件費、展示替えに係る経費(運搬費、額装費、保険料等)

6. 令和3年度の本市の対応

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた浮世絵ギャラリーの経営状況について、集客に向けた取組を行っているものの、大きな改善につながっておらず、文化財団から協定書第18条の規定に基づく収支改善に向けた協議依頼があったことを踏まえて、令和3年度の運営状況を注視しながら本市としての対応方針を検討した。

- 文化財団が作成した収支計画は、本市の基本計画を踏まえ、東京2020大会を契機とした集客を念頭に置いたもので、新型コロナウイルス感染症の影響による収益の悪化は、他の類似施設でも同様の状況であることなどから、事業環境に大きな変化が生じたと認められる。
- 令和3年度の事業収支は約1,900万円の収入不足が見込まれ、文化財団の経営努力によっても改善が見込まれないため、収支改善に向けた支援を行う必要がある。

令和3年度は文化財団に応分の負担を求めた上で運営事業費の赤字分の半額について補助を行う。また、補助にあたり、文化財団による運営改善計画の提出を求める。
令和4年度以降については新型コロナウイルス感染症の状況を見据えながら対応の検討を行う。

7. 運営改善計画(文化財団作成)

- 令和4年3月25日 川崎市文化財団より川崎市に運営改善計画が提出
- 令和4年3月31日 議会あて情報提供

① 入館者数目標

早期に新型コロナウイルス感染症が収束する状況が見通せないことを踏まえた推計

- 令和3年度 14,000人
- 令和4年度 14,500人
- 令和5年度 15,000人
- 令和6年度 15,500人

② 運営改善に向けた取組(段階的に実施)

見込まれる効果	取組内容
入場者増加	市内宿泊施設と広報協力等の連携
	旅行会社との連携による浮世絵ギャラリーを含む旅行商品の造成
	川崎市内小中学校に向けた校外学習受入れに関する情報提供
	各種メディアへの積極的な露出
	東海道かわさき宿交流館との連携による体験機会の創出
	近隣類似施設との連携強化
収入増加	イベント等への出展による認知度向上
	東海道川崎宿起立400周年事業との連携
	各種団体への知名度アップのPR
	インバウンド客の集客
経費削減	川崎市との連携による市の広報媒体を活用した広報活動
	グッズの販路拡大(オンラインショップ、イベント等での販売)
	国等の助成金等の獲得
	ふるさと納税の活用
	経費削減に関する取組の継続的な実施
	更なる経費削減に向けた検討

川崎浮世絵ギャラリーの運営状況について

資料

8. 運営改善計画の進捗状況

	内容	R3までの実績	R4の具体的な取組内容	想定される効果
入場者増加	市内宿泊施設と広報協力等の連携（東海道かわさき宿交流館と共同の取組）	・市内宿泊施設の集まり（ホテル連絡会）で浮世絵ギャラリーをPR	・近隣宿泊施設でのちらし配架やHPへの情報掲載等の広報協力を依頼（5月～）	国内外からの宿泊客やレストラン利用者及びHP情報検索者への波及
	旅行会社との連携による浮世絵ギャラリーを含む旅行商品の造成	・宿泊施設の宿泊とセットにしたパッケージを販売（まん防発出により催行されず）	・旅行会社に対しバスツアーや東海道ウォーキングツアー等のコースへの組み込みを働きかけ（6～7月実施） ・JR東日本「駅たびコンシェルジュ」ツアー川崎駅（4～7月実施）、横浜・品川駅での展開	川崎駅周辺のトータルな魅力発信及び予想可能な集客
	川崎市内小中学校に向けた校外学習受入れに関する情報提供	・市立小学校長会、市立中学校長会において校外学習受入れに関するPR	・市立小学校図工研究会、市立中学校美術研究会、各市立高等学校美術部、川崎総合科学高等学校へのPR	担当教諭への活用周知及び児童生徒の豊かな情操の育成
	各種メディアへの積極的な露出	・新聞媒体での紹介記事掲載 ・インフルエンサーによるSNSを通じた発信	・新聞媒体での紹介記事掲載【継続】 ・タウン誌での情報発信 ・ケーブルテレビでの露出	幅広い読者への周知及び集客 各媒体との関係構築
	東海道かわさき宿交流館との連携による体験機会の創出	・親子向け浮世絵摺体験会の実施	・親子向け浮世絵摺体験会（8月21日）の実施【継続】	交流館利用者への周知及び体験を通じた若い世代への認知度向上
	近隣類似施設との連携強化	・藤澤浮世絵館等の浮世絵関連施設と相互にちらし配架、ポスター掲出	・藤澤浮世絵館等の浮世絵関連施設に加え、歌舞伎や演劇関連施設等と相互にちらし配架、ポスター掲出	浮世絵に関心の高い来館者層へアプローチ
	イベント等への出展による認知度向上	・川崎駅周辺イベントでのブース出展によるPR	・ミュージアの日（7月1日）でのワークショップブース出展及びコラボぬいえ配布（5月～7月1日、塗り絵応募59人、WS参加331人）、ランチタイムコンサートでのちらし配架 ・リパークガレリアイベントへの出展（7月10日） ・川崎駅前フェスへの出展（10月）	浮世絵に縁のあるファミリー向けコンサート及びイベント参加者へのPR
	東海道川崎宿起立400周年事業との連携		・ミュージアの日（7月1日）出展時にちらし配架及びロゴマークを活用したワークショップの実施 ・スタンプラリーへの参加（10月）	シンボリックなコンテンツとして、関係する多様な構成団体や地域住民に対する魅力や認知度向上
	各種団体への知名度アップのPR		・地域活動団体等への営業活動（ちらしの配架をはじめ、連携した取組の実施を検討） ※シニア系団体（450団体）、老人福祉センター及び老人いこいの家（55施設）、近隣商業施設や企業、文化施設会員（4300人）、音楽活動団体（100団体）、音楽イベント団体、ウォーキング団体 等	多くの会員を有する団体や発信力の高い地域密着の団体、また、周辺でイベント等を行う団体を通じた認知度の向上
	インバウンド客の集客	・観光案内所（きたテラス）等での広報	・観光案内所（きたテラス）での広報【継続】 ・羽田空港国際線ターミナルでのちらし配架【再開】	インバウンド客再開時に一早いPR
収入増加	川崎市との連携による市の広報媒体を活用した広報活動	・市政だよりでの記事掲載 ・庁内でのちらし配架、ポスター掲出	・市政だよりでの記事掲載【継続】 ・庁内でのちらし配架、ポスター掲出【継続】 ・シニア世代向け情報誌での記事掲載（6月、9月） ・区役所等のサイネージ、各所大型ビジョン等への情報掲載 ・市SNSを通じた情報発信 ・職員向け電子掲示板への掲出 ・市政記者クラブへの情報提供	あらゆる広報媒体を通じた市民への周知
	グッズの販路拡大（オンラインショップ、イベント等での販売）		・川崎駅周辺イベント（川崎駅前フェス等）でのブース出展時にグッズを販売 ・地域活動団体制作のグッズを販売（7月～） ・オンラインショップ導入の検討	グッズを通じた魅力の発信
	国等の助成金等の獲得		・活用可能な助成金（文化庁、神奈川県、芸術文化振興基金）等の情報収集	新たな財源確保
経費削減	ふるさと納税の活用	・返礼品として登録	・返礼品の拡充検討	新たな財源確保 来館動機の植え付け
	経費削減に関する取組の継続的な実施 更なる経費削減に向けた検討	・消耗品等の削減	・消耗品等の削減【継続】 ・臨時職員の勤務時間数削減	支出抑制 支出抑制

9. 令和4年度の運営状況

【入館者実績】

4月 795人（有料：693人）
5月 960人（有料：852人）
6月 1,169人（有料：1,019人）

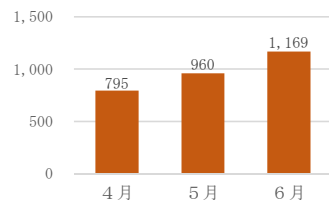
【パスポート販売実績】

4月 27枚（前年同月 27枚）
5月 25枚（前年同月 20枚）
6月 30枚（前年同月 18枚）

※年間パスポートは購入日から1年間有効
→新規購入者の増加（リピーターの確保）



入館者数推移



10. 今後の方向性

【令和4年度】

新型コロナウイルス感染症の状況が見通せない中ではあるものの、日常生活が徐々に戻りつつある状況であることを踏まえ、令和4年度は**運営改善計画の取組による入館者数の状況を把握・検証**するとともに、**今後の運営方針について庁内及び文化財団と協議**を図る。

【令和5年度】

令和4年度の運営状況を検証し、文化財団との協定期間終了後の**運営手法について検討**する。（基本方針、基本計画の見直しの可能性を含めて検討する。）

【令和6年度】

令和5年度の検討に基づき**必要に応じて支援策等**を行う。